視覚障害者へのオンライン会議システム利用訓練

－　Zoomの利用とリモートでの訓練事例　－

七沢自立支援ホーム
矢部　健三

目的

- ICT機器操作時、視覚障害者の多くは画面読み上げ機能を使用
- PCではキーボードショートカットを駆使して操作
- SPでは各種ジェスチャーが、一般の場合と大きく異なる
- 専門的な知識を持った者による支援が必要
- 2020年度にオンライン会議システム利用訓練を実施した2事例を報告

事例1

- 20代男性、脳外傷による視覚障害3級
- 神奈リハHP入院中より歩行・PC等視覚リハ訓練を開始
- 退院後は、2019年10月～2020年9月週3回通所

使用機器

- 利用者
  - ノートPC(Windows10)
  - PC-Talker10、JAWS18
  - Zoom
- 支援者
  - iPad(第6世代)

結果:事例1

- 復職に向けたPC訓練の一環として、2020年7月から8月にオンライン会議システムZoomの操作訓練を5回実施
- ソフトのインストールとアカウント取得から、会議への参加、マイクやビデオのオン/オフ、会議の開催までの操作方法を習得

事例2

- 50代女性、網膜色素変性症による視覚障害1級
- 以前に2回(計34ヶ月)通所利用
- 今回はオンライン会議システムの利用訓練を希望し、訪問による訓練を実施

使用機器

- 利用者
  - デスクトップPC(Windows10)
  - PC-Talker10
  - Zoom、FaceTime
  - iPhone7
- 支援者
  - iPad(第6世代)
  - ノートPC(Windows8)

結果:事例2

- 外出や集会が制限される中、オンライン研修会への参加や勉強会の主催のためのZoom操作法習得を目的に2020年11月から12月に訪問とリモート形式で5回訓練を実施
- PCでソフトのインストールとアカウント取得から、会議への参加、マイクやビデオのオン/オフ、会議の開催までの操作方法を習得
- iPhoneでもアプリのインストールから、会議への参加、マイクやビデオのオン/オフ等の操作法を習得

考察

- いずれの事例も5回程度でZoomの操作法を習得
- 事例2ではZoomやFaceTimeでのリモート訓練を実施
- 移動に困難を伴う視覚障害者にとって、リモート訓練は、視覚リハ訓練の提供方法の一つとして有効

指数弁以上の視力を有する者	135名
視野狭窄を有する者	80名(59.3%)
視野障害のない者	44名(32.6%)
暗点等他の視野障害を有する者	11名(8.1%)